

人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2011

特集Ⅰ

圧倒的な低燃費で 業界を先導

一步先を行くコベルコ建機の環境技術

特集Ⅱ

世界中に本物の高品質を
グローバルに展開する人材育成

特集Ⅲ

知恵と工夫でものづくりの原点へ
楽しく活気あふれる職場改善



感じています、新鮮!

小さな風。きっと最初はそこから始まる。
その風が共鳴しあい大きなニーズに成長する。
私たちは小さな風に耳を澄ます、感じとる。
人にもっと優しい技術の道を切り拓くために。
新しさと提案に満ちたマシンづくりを。
新風を感じ、帆いっぱい促え、また新たな旋風を呼ぶ。
マシンと人間の新しい関係が生まれる。

"Feelin' Fresh!"は、何よりお客さまの現場を重視する
「ユーザー現場主義」の姿勢を貫くことを誓う
私たちのコーポレート・メッセージです。

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-1111
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

2011年3月11日に発生した
東日本大震災におきまして、
被災された皆さまには
心からお見舞い申し上げますとともに、
被災地が一日も早く復興することを
心よりお祈り申し上げます。

未来へ歩み続けるコベルコ建機グループ

コベルコ建機グループは、1930年に建設機械の国産第1号機をつくって以来、約80年間、さまざまな事業環境の変化に対応しながら、真に価値ある商品・サービスを提供し、お客さまの満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献できるよう努めています。

また、私たちの経営理念であるユーザー現場主義に基づき、燃費や静粛性に優れた環境性能の高い建設機械を世界各地のお客さまに提供することはもとより、一企業として、ステークホルダーの皆さまに長く信頼を寄せていただけるように、私たち社員一人ひとりが社会的責任を深く自覚し、一歩ずつCSR活動に取り組んでまいります。

●報告書の対象に関して

- 【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、
グループ関連企業を対象としています。
- 【対象期間】 2010年4月1日～2011年3月31日
(一部2011年4月1日以降の情報を含む)
- 【報告書発行】 2011年5月

CONTENTS

01 はじめに

活動概念／トップメッセージ
CSRメッセージ／コベルコ建機グループのCSR

03 特集Ⅰ 圧倒的な低燃費で業界を先導

一歩先を行くコベルコ建機の環境技術

05 特集Ⅱ 世界中に本物の高品質を

グローバルに展開する人材育成

06 特集Ⅲ 知恵と工夫でものづくりの原点へ

楽しく活気あふれる職場改善

07 環境保全活動報告

環境リサイクル機械／環境マネジメント／環境保全対策

11 社会・地域活動報告

CSR基金／海外活動／国内活動／CSR賞制度

15 コンプライアンス・全社活動報告

コンプライアンス活動／製品の品質と安全
職場と人をつくる全社活動

17 環境数値／コベルコ建機グループの概要／編集後記



GECと新工場の設立で グローバル対応を強化。

コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

小谷 重遠

3月11日に発生した東日本大震災においては、衷心より犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆さまと、そのご家族の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。16年前の阪神・淡路大震災と、3年前の中国四川大地震において、多くの方々から多大なる援助と励ましのお言葉をいただき、復興を果たすことができました。今回は、私たちが恩返しをする番であり、建設機械の供給はもとより「私たちができること」で被災地の支援を行ってまいります。

コベルコ建機グループは2010年に、中期経営計画(2010～2012年度)をスタートさせました。これまでも中国・インドを含むアジア・オセアニア地域に経営資源を集中して事業活動を展開してまいりましたが、今中期経営計画では、グローバル戦略、とりわけアジア戦略をより明確に打ち出しました。建設機械事業は、中国を筆頭にアジア諸国での需要が大きく伸張しています。

現場での生産性向上活動の成果が表れたことや、当社製品の燃費性能が定評を得たことなどにより、2010年度の業績は、過去最高益を達成することができました。今後、広島市五日市地区におけるGEC(グローバルエンジニアリングセンター)と新工場の設立・移転が新たな取り組み課題となります。GECは、グローバル化するグループ全体の開発・調達・生産を最適化する司令塔機能を果たし、新工場は、最高水準の生産性を実現させる予定です。サプライチェーンやマネジメント体制のグローバル対応強化を図り、当社の強みをさらに発揮させてまいります。

当社のCSR活動の基本は、事業活動を通じたものであると考えています。当社の油圧ショベルは、20トンクラスで従来機に比べ約20%、8トンクラスのハイブリッドショベルで約40%の燃費低減を実現しています。燃費の低減は、CO₂削減のみならず、顧客の経済性においても貢献していることを意味します。また、当社のショベルは「静粛性」にも優れており、市街地に暮らす人々にも配慮しています。今後も、「人と環境にやさしい建設機械づくり」を目指して、開発・技術力強化に注力します。

企業は、営利追求だけでなく、社会との関わりの中で事業活動を行い、関係する地域に貢献することが大切だと考えています。社員には、些細なことでも、地域の人々に感謝していただけるようなことを行ってほしいと思います。コベルコ建機グループを取り巻くステークホルダーの皆さまから受け入れられること、これが企業の社会的責任(CSR)の根幹です。2011年度もコベルコ建機グループは、社会とお客さまに貢献できるよう取り組んでまいります。

CSR Message 人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

- Message 1 コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。
- Message 2 コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。
- Message 3 コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、地球と人にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針・活動ポリシーに従って、全社をあげてCSR活動に取り組んでいます。



全社CSR委員会

CSR活動方針

私たちは持続的成長の実現を通じて、人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいます。また、コベルコ建機グループに脈々と流れる心情を受け継ぎ、CSR活動を通して社員一人ひとりがさらに磨かれ、成長するきっかけにしています。

これらの活動は、次の3つの方針に基づいています。

- ①コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

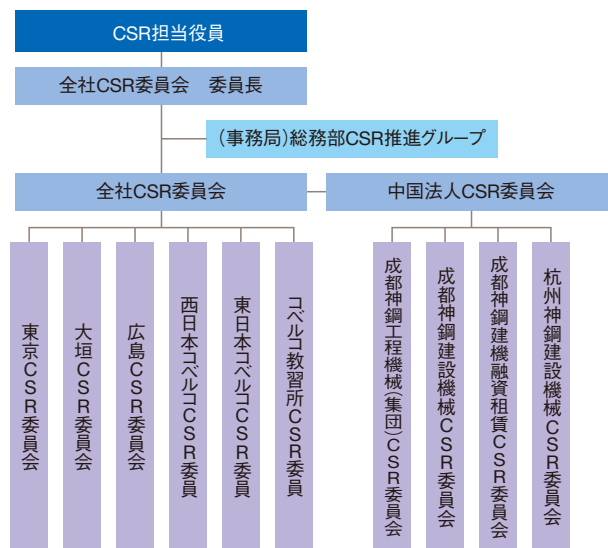
CSR活動ポリシー

- 人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。
- 身の丈に応じた活動であること。
- 事業を展開している地域での活動であること。

この3つのポリシーに従って「人と地球の未来を考えるコベルコ」をコンセプトに、さまざまなCSR活動を進めています。活動内容においては、単に金銭的な寄付をするのではなく、身近な人々や、事業を展開させていただいている地域での、心が通じ合うような活動や支援を大切にしています。コベルコ建機グループの建設機械がいるそばで、コベルコ建機グループのプレゼンスを高めていけるような活動の一つひとつ行っていきたいと思います。

CSR組織体制

コベルコ建機グループは、2006年度に事務局となるCSR推進グループを発足させて以来、グループ全社・全従業員へCSR活動の輪が広がるよう、組織体制を見直しながら取り組んできました。活動の中核を担うCSR委員会は、CSR担当役員を筆頭に全社各部門の中堅、若手社員から選出されたメンバーで構成され、CSR活動の新規案件、スケジュール、中期計画などを担当しています。



●コベルコ建機株式会社CSRサイト

社会環境報告書は、コベルコ建機(株)ホームページにも掲載しています。紙面で紹介しきれなかったCSR活動も掲載していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>





圧倒的な低燃費で業界を先導

一歩先を行くコベルコ建機の環境技術

環境大臣表彰を受けたハイブリッドショベル

コベルコ建機(株)は、2010年度の地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)を受けた。この表彰は、環境省が年に一度、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人や団体を表彰するもので、1998年度に始まった。今回の受賞は、40%もの燃費低減を実現したハイブリッドショベル「SK80H-2」の開発と量産化が評価され、ハイブリッドショベルでは初の受賞となった。

油圧ショベルは年間に、国内で1万台以上、世界では20万台が生産され、建設機械の6割を占めるといわれている。油圧ショベルのハイブリッド化は温暖化防止の観点からも待ち望まれていたことで、「SK80H-2」のハイブリッド技術は、大半の油圧ショベルに展開することが可能だ。また、他社のハイブリッドショベルと比べても圧倒的に低燃費なシステムであり、今後ハイブリッドショベルが普及する際の基準モデルになることも期待される。

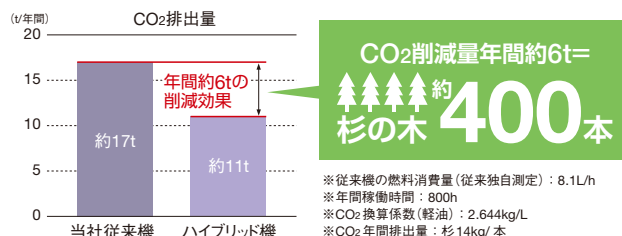


国交省認定低炭素型建設機械第1号

「SK80H-2」は、国土交通省が2010年4月から開始した低炭素型建設機械の認定第1号になった。これは、建設施工における、CO₂排出低減効果の高い低炭素型建設機械の普及促進を目指して制定されたものだ。

一般的なハイブリッドの仕組みは、旋回減速時のエネルギーを電力として蓄電するのだが、「SK80H-2」はさらに、軽負荷時に余るエンジンエネルギーも電気に変える。余剰エネルギーを利用するハイブリッド技術は、業界内では他に存在しない。電気をたくさんつくる分、電力でまかなえる動作が増え、エンジンは従来より小型のものを搭載できるというメリットも生まれた。

「SK80H-2」は市街地で最も多く使われる8トン機だ。燃費軽減と小型エンジンによる排ガス・騒音低減の威力が最も生かされる機械といえる。また、この認定により、日本政策金融公庫による貸付対象となり、経済性の面でも、ユーザーに大きく貢献することになる。



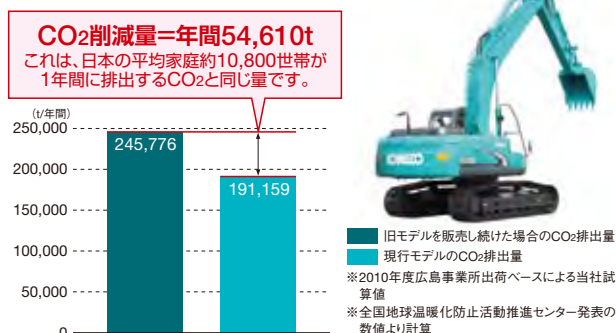


「燃費のコベルコ」の真価

コベルコ建機グループが「低燃費のコベルコ」と呼ばれる所以は、ハイブリッドショベルだけではない。2006年から販売している非ハイブリッドの一般機「アセラ・ジオスペックシリーズ」においても、業界をリードする燃費性能を誇る。従来機に比べて燃費は20%改善し、(社)日本建設機械化協会の団体規格JCMASの燃費基準に基づいた測定では、他社を寄せつけない圧倒的な数値となり、コベルコ建機グループの優れた技術力を証明することになった。

また、排ガス中の有害物質を大幅に減らし、国内建設機械業界初のオフロード法適合機にもなった。一般的には、オフロード法で定める高い排出ガス基準をクリアし、かつ掘削力を高め、燃費も向上させることは、まさに至難の業。当時の開発者たちが、エンジン本体、エンジン制御、油圧システムの圧力損失、機器効率など一つひとつを徹底的に見直し、未知の世界へ挑戦し続けたことが、不可能を可能に変えた。

発売から既に5年が経とうとしている「アセラ・ジオスペックシリーズ」だが、今なおユーザーに高く評価されている。現在、最も多く流通しているコベルコ建機の主力シリーズで低燃費を実現したことが、長く評価され続けている理由であろう。



極低騒音の威力と省エネ運転機能。国交省NETISに登録[iNDR技術／オートアイドルストップ]

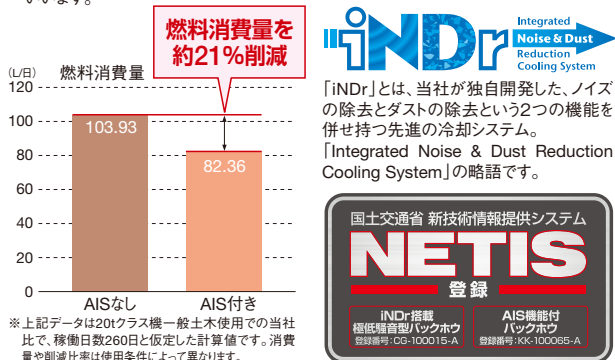
今日、コベルコ建機の油圧ショベルがユーザーに高く評価されているもうひとつの理由が「低騒音」だ。油圧ショベルは鉱山や開拓地だけでなく、市街地の建設現場や道路工事で利用されることも多い。住宅や病院、学校などの周辺では、特に騒音配慮が求められる。当然、ユーザーからは低騒音のニーズが高まっていた。

これに対し、コベルコ建機グループが出した答えが、「iNDR」だ。エンジンルームを独特の構造にすることで外部への音漏れを最小化し、国土交通省が定める超低騒音型建設機械の基準を大幅にクリアした「極低騒音」を実現させた。従来機と比べ最大10dBにもなる低騒音化は、人が感じる音量を約半分にしたことになる。

2010年9月、iNDRを搭載した油圧ショベル8機種が、国土交通省NETIS(新技術情報提供システム)の申請情報に登録された。NETISとは、新技術の積極的な活用を促すために体系化された情報公開システム。公共工事で施工者がNETIS製品を使って申請すれば、工事評価に加点される。NETISに登録されたことは、iNDRの革新的技術が専門機関に認められたことを表している。

そして2011年春、コベルコ建機グループが業界で初めて全油圧ショベルへ搭載したオートアイドルストップ(AIS)機能※が、NETISに新たに登録された。乗降遮断式レバーと連動してアイドリングが停止する仕組みで、オペレーターが機械から離れた際の無駄な燃料消費をなくし、燃料消費とCO₂排出量、ともに最大20.8%(実測値)の削減を達成した。AIS機能の登録により、コベルコ建機の油圧ショベルは、7トンクラスの後方超小旋回機から40トンクラスの大型バックホウまで、全機種がNETIS登録となり、製品の信頼へとつながっている。

※「オートアイドルストップ」とは、乗降遮断式レバーと連動し、エンジンを停止する機能をいいます。



TOPICS

低燃費ショベルを生み出した神戸製鋼所との技術提携

コベルコ建機グループにとって、神戸製鋼所との連携は大きな強みだ。低燃費ショベルの研究開発は、動力・制御など5つの要素開発グループに分かれて、神戸製鋼所と共同で行った。また、技術開発本部機械研究所と開発した「シミュレーションベンチ装置」は、エンジンなどの燃費や制御性能に加え、操作性の試験も可能で、低燃費技術の核となっている。



互いの技術を結集し 新技術を生み出す

今西 悦二郎
(株)神戸製鋼所
技術開発本部 機械研究所 次長



低燃費な油圧ショベルの開発には、実掘削作業における油圧駆動システムの動きを把握することが不可欠です。研究所で開発した油圧駆動システムのシミュレーション技術をベンチ装置にも適用し、燃費低減や操作性改善を実現しました。これまでの技術を進化させ、さらなる低燃費化に貢献したいと考えています。



QRの浸透により、さらなる品質アップを目指す

宗條 利彦

コベルコ建機(株) 品質保証部 品質保証室 マネージャー

海外生産拠点における新工場や新機種への立ち上げ需要に先立ち、2009年度の合同品質会議より「初期流動品質の早期改善活動(クイックレスポンス活動=QR)」をテーマに取り上げてきました。初期不良を早期改善する手法がコベルコ建機グループ全体に浸透することで、品質をさらに高めることができた実感しています。

VOICE

お客さま満足度アップを目指す

コベルコ建機グループの「サービス技能大会」が2010年11月、兵庫県明石市にある研修センターで開催された。第8回となる今回は、国内販社2社、レンタル会社4社、アジアの現地法人3社の計9社が参加した。この大会はお客さま満足度向上を目指して国内2販社から始まった。近年大きく事業展開を進めるAPACエリアでサービス力強化の重要性が高まり、第6回より海外からも本格的に参加。国内外のサービスマンが切磋琢磨し、競い合っている。

競技は、不具合を調査し報告書をつくる「サービス業務報告競技」、機械の分解や電気・油圧のトラブル解決を行う「メカニック総合競技」、溶接・溶断を行う「特殊技能競技」の3種目。いずれも高いサービスに不可欠なスキルだが、特徴的なのは全競技に学科試験があること。高い技能だけでなく、正確な知識も求められる。

こうした定期的な技能大会の開催により、モチベーションの向上と技術の継承が促進されてきた。コベルコ建機グループでは、研修教材や講師派遣についても本社が全面的にサポート。各社における技術力アップを支援している。年々、実力を増す海外勢だが、今大会で初めて、中国法人が団体2位になった。

世界中に 本物の高品質を

グローバルに展開する人材育成



思いをひとつに、さらなる高品質化へ

コベルコ建機グループの国内外全工場から責任者が集まり、年に一度開催される合同品質会議。2010年度は、広島・大垣工場と、中国、インド、タイ、シンガポールの各現地法人から計42名が広島に集まり、ものづくりへのこだわりと、より高い品質の実現に向かって、活発に意見を交わした。

合同品質会議は「メイド・バイ・コベルコ」であれば、どこでも同じ高い品質の製品が製造できるような仕組みづくりと、グループの連帯を強めることを目的に2006年にスタート。製造とフィールドサポートに分けて課題の検討や目標設定をし、経過や結果を発表してきた。品質重視の意識徹底と評価方法の整備により、各工場とも大きく成長。特にタイ工場の改善力には目ざましいものがある。品質向上はもとより、他工場も含めた成功事例の発表が有効な情報となり、グローバルな人材育成につながっている。

6年目となる現在、新機種試作段階で量産レベルの検証をすることによる品質の早期安定化や、国内外のフィールド情報を正確に早くつかみ、迅速に対応できる体制づくりなど、より高い課題に向けて活動を展開中だ。



知恵と工夫で ものづくりの原点へ

楽しく活気あふれる職場改善

逆境を好機と捉え、職場改善

2008年秋。リーマンショックによる景気後退は、コベルコ建機グループの生産にも大きく影響した。生産量がピーク時の1割未満へと落ち込み、現場スタッフの士気も先行きの不透明感から、停滞ムードへと様変わりした。しかし、時間と人手が余るこの時が、むしろ生産体制を見直す良い機会となった。

そしてスタートしたのが「K30D」。「K=コベルコ・改善・継続」「30=工数30%削減」「D(ダイナマイト)=現状打破」を意味する現場発の改善プロジェクトだ。現場で当たり前のように行っていた「歩く」「探す」「しゃがむ」「クレーンを使う」「手持ち」といった行動を5悪と呼び、「楽しく」「楽しく」をコンセプトに掲げ、若手も含めた現場スタッフから率直な意見を聞き出すことからプロジェクトは始まった。



「からくり」を導入した快適な職場

見直しの対象は多岐に渡った。雑然と置かれていた工具や部品の置き場も、作業手順を考え、歩き回らず取り出せる場所に配置した。また、電力などに頼らず、てこの原理や歯車などを使って自動化する「からくり改善」も積極的に取り入れた。40kgのコンベアを立ったまま足で動かせるようにした「足でポン」や、部品を取り出した後の空箱の運搬を滑車を使って自動にした「ゴードン」など、ものづくり本来の楽しさが息づく、手づくりの装置がいくつも完成した。「ゴードン」は、からくり改善くふう展2010に出品され、特別奨励賞を受賞。こうした社外からの評価が作業者のモチベーションを向上させ、K30Dをさらに加速させることになった。

※K30Dは、後に神戸製鋼グループの社内表彰制度「田宮賞」の銅賞を受賞した。



楽しい改善をグローバルに展開する

成果は明らかだった。生産リードタイムは7.6日から4.6日に短縮された。人員やスペースにも余裕が生まれ、新たにクローラフレームなどの内製化へと発展した。思わぬ効果もあった。不具合の発生率が大きく低下し、ケガなどの労働災害率が3分の1に減少したのだ。あらゆる効果が、減産で失われつつあった活気を工場内に取り戻させた。改善経験者は、楽しく安全に生産効率を上げる仕組みの指導者として海外の工場にも派遣。言葉や文化の壁など新たな課題はあるが、改善の楽しさを知り、ものづくりの原点に立ち戻った現場の代表として、グローバル展開に貢献している。



K30Dの成功を導いた、現場の強い団結力

森田 博史

コベルコ建機(株) 開発生産本部 広島事業所 祇園製造室 室長

K30Dはものづくりの原点や改善の楽しさを知った現場スタッフが原動力となり、「団結力」を深めたからこそ成功につながったのだと思います。現在は、五日市新工場や国内外工場を対象とした「K30G」へと発展していますが、コベルコ建機グループ全体に、さらに大きな団結力が生まれることを期待しています。



VOICE

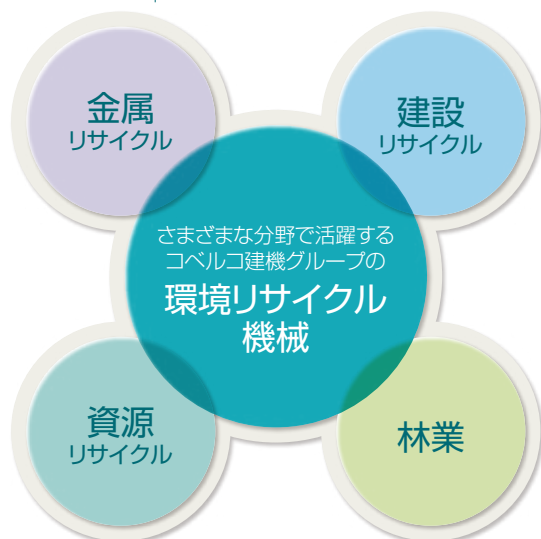
私たちが取り組む環境保全

コベルコ建機グループは、地球にやさしい製品づくりを行っています。
環境リサイクル分野で活躍する建設機械の開発・生産にも力を入れ、
資源保全への取り組みを推進しています。
製品の性能はもとより、製造・流通过程においても、環境に配慮しています。



環境
リサイクル
機械

環境保全に活躍する
幅広いラインナップ



金属リサイクル

コベルコ建機は、10年以上前から「都市鉱山」をキーワードにした製品開発を行っています。使用済み自動車や廃家電品などを分別解体する解体機や、スクラップの処理工程に欠かせないハンドリング機など、再資源化フロー全体を見据えて、それぞれの工程における効率化を追求。さらに、屋内稼働時の配慮とCO₂削減のために、マシンの電動化も進めています。

建設リサイクル

建造物の解体作業には、スピードと安全性が求められます。また、建物解体機はさまざまな場所へ移動して稼働しなければいけません。そのためコベルコ建機の解体機は、建物解体に必要な基本性能の向上はもちろん、現場から現場へ移動するための機動性向上を念頭に置き、より容易な分解・組立性や、安全かつ法規に従った輸送性を考慮した開発を行っています。

資源リサイクル

複合素材で構成される廃棄物の効率的な再資源化は喫緊の課題です。廃棄物を資源化するための最初のステップで、かつ最も重要なのが分別作業。コベルコ建機は、より繊細な解体・分別を行える選別機の開発を進めると共に、機械の低騒音化やメンテナンスの簡素化によって、作業環境を向上させることにも配慮しています。

林業

健全な森林の整備・育成は、CO₂の吸収はもとより、水資源の確保、治山・治水、海浜保護などの働きがあり、環境保全において重要な意味を持っています。コベルコ建機は、多種多様なお客さまのニーズに応えるため、森林整備に必要な機能を盛り込んだ専用ベースマシンを開発。さらに林業アタッチメントメーカーの協力のもと、高性能林業機械のラインナップ拡充も進めています。



専用ベースマシンを開発し 林業向け機械の充実を目指す

玉井 正浩

コベルコ建機(株)
営業促進部 環境マーケティンググループ グループ長



VOICE

2010年、環境関連市場、第4の柱として林業への取り組みを本格的に再開し、それをアピールする場が11年ぶりの出展となった林業機械化展でした。これを機に、森林で役立つ作業装置が100%の性能を発揮できるよう、林業向け専用ベースマシンを開発し、品揃えを進めています。2011年は「国際森林年」でもあり、ロゴマークの使用、国産の木や紙を材料にした記念品やノベルティの製作などで、啓蒙活動の一端を担いたいと思っています。

④ 資源リサイクル 電動式ベースマシン [SK235SRD]

廃棄物処理現場の低炭素化に貢献する電動式ベースマシン。ニーズに応えた用途展開を進めます。



※写真はエンジン仕様です。

③ 金属リサイクル スクラップローダ [SK260DLC]

ふとこが深く、積み下ろし作業に適したバンドームのタイプをラインナップに追加しました。



② 建設リサイクル メインブーム兼用型解体機 [SK210DLC/SK260DLC/ SK235SRDLC]

アタッチメントの組み替えによりさまざまな仕様に展開が可能。本体の稼働率アップを図れます。



① 林業 林業専用ベースマシン

森林という特殊な環境下でも高い性能を維持・発揮できるよう、林業専用装備を追加しています。

TOPICS 林業分野の製品開発を通じ、森づくり活動を支援

コベルコ建機グループは、これまで金属・資源・建設リサイクルの3分野に関連する専用機械の開発を進めてきました。2010年度には、4つ目の柱として「林業」分野にも注力。2010森林・林業・環境機械展示実演会にも出展しました。

森林には、温室効果ガスの吸収による地球温暖化の抑制や土砂崩れの防止、水資源の保全など、さまざまな働きがあります。しかし国内では、採算性や担い手の問題から森林保護・管理が十分行われず、森林機能の低下が危ぶまれています。

こうした中、国連の定める「国際森林年」がスタートしました。私たちは国際森林年の趣旨に賛同し、「フォレスト・サポーターズ」に参加。製品開発を通じて、林業に携わる人々に協力するだけでなく、天然素材を有効に使ったノベルティグッズを製作することで、活動推進を応援しています。



2011・国際森林年

環境管理方針

コベルコ建機グループは「地球環境改善に積極的に取り組むことが全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」と認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、「全社環境管理方針」を制定し、事業活動のあらゆる面において環境に配慮する「環境経営」の推進に努めています。

■環境経営基本方針

グループ環境経営の実践による企業価値向上

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- ①環境に配慮した開発・生産活動
- ②製品・サービスでの環境への貢献
- ③社会との共生・協調

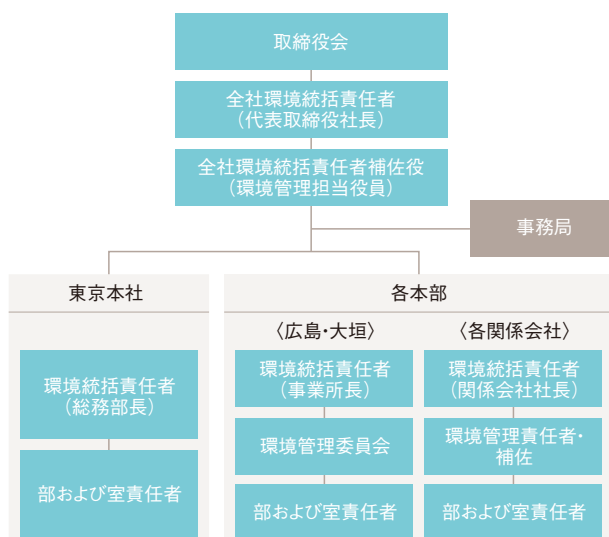
を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

環境リスク管理・環境監査

コベルコ建機グループは、全ての生産工場および拠点に環境リスク管理体制を構築し、環境監査の強化に努めています。また、大気、水質、振動、騒音、廃棄物、化学物質、エネルギー、危険物、施設・設備等のチェック項目を設定。各事業所において対象項目が関係法令等に定められた基準を満たしているか、定期的な環境監査を行っています。

環境管理体制

コベルコ建機グループでは、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。また、全社の環境管理を統括する環境管理事務局を設置することにより、環境管理体制の強化と全社的な環境マネジメントを実施しています。



インド新工場建設

コベルコ建機グループは2011年1月にインドのアンドラ・プラデシュ州で油圧ショベルの生産工場の稼働を開始しました。2008年に稼働を開始したタイ工場と同様に「明るい・静か・クリーン・涼しい」をコンセプトとして、①外壁をスリット構造にし天井と床の温度差を利用した自然換気機構 ②工場の床や壁の色を白にし、自然光を取り入れる ③大雨などにより工場排水が直接外部へ流れないように周囲を溝でおおうなどのアイデアを展開。コベルコ建機グループが考える“環境に配慮したものづくり”を形にした工場がまたひとつ完成しました。



塗着効率向上

油圧ショベルに使う塗料には、揮発性有機化合物(VOC)が含まれており、塗装時に揮発して飛散する分が、大気汚染の原因のひとつとなっています。広島事業所では塗料の放散を減らすための塗着効率向上に向けた改善活動を実施。すでに一部の塗装ラインでは、改善前と比較し、塗着効率を2倍に高めることができました。これにより、塗料の使用量とともに、大気中に出るVOCの量が半減。塗料の空き缶などの廃棄物や、大気中の不純物を取り除くフィルターも大幅に削減できるようになります。現在、他のラインや国内外の工場へ展開するための活動を進めています。



廃棄ゴムクローラ類のリサイクル推進

(社)日本建設機械工業会は、2008年12月1日より廃棄物処理法に基づき、建設機械走行装置に使用されているゴムクローラ類の適正廃棄処理や再資源化を目的とした、廃棄ゴムクローラ類の広域リサイクルシステムを始めました。本システムは、環境省の認定ルートで処理されるものであり、環境負荷軽減だけでなく、コンプライアンスにもつながるものです。

コベルコ建機グループもメーカー会員の一人として、本システムをお客さまにご紹介してきました。これまでに約53tの廃棄ゴムクローラ類のリサイクルをしており、今後も積極的に推進していきます。



部品のモーダルシフト化

2009年5月から行っている部品輸送のモーダルシフト化(トラック輸送から鉄道輸送への切り替え)を、2010年3月から大幅に拡大。これらの取り組みによる省エネ効果は、原油換算で年間15.34kl(ドラム缶77本分)にもおおよび、CO₂の排出量削減にも大きな効果を発揮しています。



特定輸出申請制度導入

コベルコ建機グループは2009年10月より、輸送にかかるCO₂の削減や業務の効率化を目指し、物流拠点を神戸港から広島市の五日市地区に集めて稼働を開始しました。併せて、自社敷地内で輸出申告が可能となる特定輸出申告制度を導入。近隣の五日市港から直接、輸出できるようになり、五日市出荷場から輸出貨物船への輸送が迅速かつ円滑になりました。その結果、リードタイムや物流コスト、大幅なCO₂の削減を達成しました。原油換算で年間156kl(ドラム缶約800本分)の省エネ効果も出ています。



リユース・リサイクル

コベルコ建機(株)では、エンジン・油圧ポンプなどの使用済みの機器を新品同等の品質に再生して使用できるDCユニットの製造をしています。機器を再生することにより廃棄物削減や資源節減に貢献しており、費用的にも低価格での供給が可能となりました。



その他の2010年度取り組み項目

項 目	事業所	内 容
省エネ活動	全社	●昼休憩時の消灯、PCやコピー機の省電力モード設定 ●クールビズ・ウォームビズ活動の推進(エアコンの温度設定管理) ●社有車をハイブリッド車に順次切り替え ●テレビ会議の推進。古紙・裏紙の使用推進。会議のペーパーレス化を推進
	広島本社	●油圧ポンプのインバーター化 ●省エネ型照明灯への交換 ●大物CKD部品の輸出を神戸港からサプライヤー最寄りの港に変更
	広島本社・大垣事業所	●構内でのアイドリングストップ推進
	大垣事業所	●定期巡回便(ミルクラン)を実施
	東京本社	●マイカップ運動の継続実施
廃棄物削減	広島本社・大垣事業所	●廃油、廃ブラ、木屑のサーマルリサイクル化および有価物化を推進 ●可燃物の分別収集徹底。ダンボール類の有価物化 ●中国 杭州への小物CKD部品の梱包に、リターナブルパレットを使用 ●コピー用紙の部門別管理の実施
	広島本社	
化学物質管理	全社	●法令に基づく、PCBの保管・管理
	広島本社	●PRTR法に基づく、関係省庁への届出 ●JAMAシート運用により、REACH規制対応準備 ●アスベスト使用部位の調査と囲い込み処置の実施
環境負荷低減対策	広島本社	●広島県条例に基づき、「オキシダント情報発令時におけるVOC減少計画」の策定と実施 ●祇園工場のテスト工程などを五日市出荷棟へ移設し、騒音・振動負荷を軽減
	東京本社	●グループ会社に対し、産業廃棄物の適正処理、消防法で定められた危険物の保管・処理方法の指導・徹底
揮発性有機化合物(VOC)削減対策	広島本社	●部品塗装化を推進
	広島本社・大垣事業所	●有機溶剤使用量の削減(塗装品質改善プロジェクト)
水質に関する負荷低減対策	広島本社	●排水処理施設、油水分離槽の定期点検の実施 ●ボイラードレン水にpH対策を実施し、中性化してから排水
	東京本社	●排水の確実な処理について指導・徹底
環境関連製品・技術開発	広島本社	●ハイブリッドショベルの開発・販売 ●環境リサイクル機械の開発・販売
グリーン調達・グリーン購入について	広島本社	●グリーン調達ガイドライン(環境整備、含有化学物質の届出等)案を作成
環境意識向上のための取り組み	全社	●e-ラーニングにより環境管理の講習を実施
	広島本社	●分科会活動による環境活動の計画・実施 ●内部環境監査による改善活動の継続
	大垣事業所	●内部環境監査員の勉強会を開催
	東京本社	●グループ会社に対し内部環境監査を実施
	東京本社	●社会環境報告書等の制作・配布

地域の人たちとの交流

コベルコ建機グループは、事業活動を行っている地域を大切にしています。
住民の方との交流や、地域に密着した支援活動を推進し、
地元根拠地企業として、地域との共存・共栄を目指します。



衢州市常山県
新昌郷対峙
小学校への支援
(中国・衢州)



彭州
成都

西南交通大学
神鋼奨学金制度
(中国・成都)

シエムリアップ

マニラ

● 詳しい活動内容は
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>

CSR基金

社員提案の活動を支援し 自発的な社会貢献を促す

社会全体への貢献活動を推進するため、2006年度に「コベルコ建機CSR基金」を設立しました。主にコベルコ建機グループが事業を展開する国内外の地域で、さまざまな支援を続けています。対象は、社内公募の中からコベルコ建機グループのCSR活動の理念に合致するものが選ばれ、これまでに、地域社会への支援、地球環境の保護、人材育成などをサポート。2010年度も、フィリピン孤児院の支援や、中学生レスキューロボットコンテスト、ブラジル人学校HIRO学園の支援など、幅広い活動を支えてきました。

海外活動

心の通じるサポートで 地域と共に成長を目指す

コベルコ建機グループはグローバル企業の一員として、事業展開する地域に根拠地企業としての貢献活動を行っています。各拠点では従業員が実際に支援先に足を運んで生の声を聞き、本当に必要なものを感じることからスタート。私たちにできる“身の丈にあった活動”を積極的に展開しました。今年度も近郊小学校や孤児院の支援など、これからの社会を背負って立つ子どもたちへのサポートを中心に活動を進めました。コベルコ建機グループは、未来を見据え地域社会と共に成長できる支援を今後も続けていきます。

フィリピン孤児院の運営・活動維持の支援

■ 東京本社(フィリピン・マニラ)

2006年度から毎年、フィリピンの孤児院に対し、運営や活動を維持するための寄付を行っています。寄付金は主に、食料や飲料水などを中心とした、生活そのものを支える資金として利用されています。厳しい生活環境の中で暮らす数十人の子どもたちが、これから大きくたくましく成長し、社会で活躍してくれることを願っています。





他者への関心を持つことが
新しいCSR活動を生む

黒田 俊恵
東日本コベルコ建機(株) 販売促進部



左の写真を見て「この人、何でパーカー着てるの?」と思いませんか。実は「震災による節電で寒いから」です。CSR活動では「何で?」という「他者への関心を持ってほしい」という願いがあります。「何で?何かできることは?」という思いが、市川展示会のCSR「子ども職場体験コーナー」の開設となり、まさに画になった瞬間です。サービス・営業・事務スタッフがいる販社だからこそできる活動を今後も展開できればと考え、実行していきます。

緑豊かな工場を目指して植林活動

■成都神鋼工程機械(集団)有限公司など3法人(中国・成都)

成都市に拠点を構える3法人合同で植林活動を行いました。今回は、成都神鋼工程機械(集団)有限公司の新事務所建設予定地で実施。付近は工業用地として開発途中で、荒地も多く緑が少ない地域なので、植えた木々が早く根つき来客や地域の方々に喜んでいただけることを願っています。当日は多くの従業員が参加し、絶好のコミュニケーションの場にもなりました。



アンコール・ワット復興を支えるカンボジア人の育成

■東京本社(カンボジア・シェムリアップ)

年々破損や崩壊が進むアンコール・ワットの貴重な遺跡群を守るために、多くの国や団体が援助をする中、上智大学アンコール遺跡国際調査団は資金的援助をするだけでなく、カンボジアにとっても貴重な財産であるこの遺跡群をカンボジア人自らの手で修復・保存するための手助けを行っています。コベルコ建機グループはこの活動に共感し2006年から支援を続けています。



TOPICS

慶興神鋼小学校への支援

■成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国・成都)

2008年に発生した四川大地震は中国全土に大きな影響を及ぼし、子どもたちから学び舎をも奪い取りました。コベルコ建機グループは神戸製鋼所と共に被災した小学校を再建し、今なお支援を続けています。2010年度は、かばん寄贈や工場見学を実施。油圧ショベルのデモンストレーションに目を輝かせる子どもたちの姿がとても印象的でした。震災後の手助けとして、こうした地道で継続的な支援や手紙などを通じた交流が、少しでも子どもたちに希望を与え今後の成長の支えとなることを願って、地元への恩返しのため活動を続けています。



国内活動

あたたかい交流を図る 地域に根ざした活動

「人と地球の未来を考えるコベルコ建機グループ」の活動コンセプトのもと、国内では、従業員のボランティア活動や地域イベントへの協力を中心にCSR活動を行っています。コベルコ建機グループは住民の方々とのつながりや交流を深め、地域に根ざした活動を継続的に行うことにより、地域で愛され親しまれながら、地域と共に成長することを大切に考えています。



中学生レスキュー
ロボットコンテスト
（広島）



花いっぱい運動
（大垣）



どこでん行く隊支援
（福岡）



●詳しい活動内容は
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>

近隣学校の社会見学

- コベルコ教習所(株)熊本教習センター
- 西日本コベルコ建機(株)熊本営業所
- 2010年12月8日

熊本教習センターと熊本営業所の共同で、隣接する養護学校の社会見学を行いました。今やこの工場見学は、年1回の恒例行事となっています。建設機械の製造過程のデモンストレーションとして、鉄板のガス切断や電気溶接の実演を披露しました。このほか、エンジンを停止させた油圧ショベルで乗車体験も実施。子どもたちからは、講師を務めた従業員がびっくりするほど活発に質問が出され、目を輝かせながら真剣に学ぼうとする姿に、CSR活動を継続することの大切さを強く感じました。



東京本社前花壇の手入れ

- コベルコ建機(株)東京本社
- 通年

東京本社では地域貢献活動の一環として、2006年7月からオフィス前や近隣の花壇の手入れを行っています。枯れた花を摘み取って季節の花に植え替えたり、目黒川の水を利用して水まきを行ったりしています。毎年春と秋に、ボランティアの方々や近隣の子どもたちと一緒に植え替え作業を行うことで、地域の方々との交流が深まっています。地道ですが、継続することに意味があると考え、これからも続けていきたいと思っています。



TOPICS

CSR活動から生まれた新たな絆

2011年3月11日に発生した東日本大震災。世界中を震撼させた大震災は多くの尊い命を奪い、被災地に住む人々の生活を奪っていきました。私たちコベルコ建機グループは、阪神淡路大震災や中国 四川大震災の経験を生かし、震災直後から被災地の状況に合わせた支援に努めてきました。まずは、従業員やその家族の安否確認、水・毛布・食料などの支援物資輸送。そして、建設機械（油圧ショベル、ホイールローダー、道路機械 計6台）の寄贈をしました。

こうした支援活動の最中、四川大震災で被災し、コベルコ建機グループが支援してきた慶興神鋼小学校より、心温まる連絡が届きました。「私たちを支えてくれた日本の皆さんに恩返しをしたい。同じように被災し困っている子どもたちの助けになりたい」と。幼い子どもたちがわずかなお小遣いを集め、激励の手紙を添え、先生方やご両親と共に支援の手を差し伸べようとしてくれたのです。私たちは、託された子どもたちの大切な気持ちと、義援金を東北地方の小学校へお渡しする計画を進めています。



近隣小学校の工場見学

■コベルコ建機(株)広島事業所
■2010年10月26日

広島事業所五日市出荷棟がある広島市佐伯区の、楽々園小学校5年生を招いて工場見学を行いました。地域の企業と貿易を学ぶことを目的とし、佐伯区が企画。“子どもの理科離れに歯止めをかける”を目指してCSR活動を推進していた広島事業所が賛同し、実現した工場見学です。当日は、出荷棟内の見学だけでなく、海外へ出荷される油圧ショベルの船積みも見学していただきました。参加した小学生たちは、油圧ショベルの大きさや、普段目にすることのない船積みの様子に目を輝かせていました。



大展示会で「職場体験コーナー」を開設

■東日本コベルコ建機(株)
■2010年10月16日・17日

お客さまのご家族や近隣の子どもたちに、建設機械やコベルコ建機グループに関心を持ってもらおうと、東日本の大展示会で「職場体験コーナー」を設置。参加した子どもたちにはコベルコ建機グループのサービスマンとして、油圧ショベルの部品取り付けを行ってもらいました。作業中は真剣そのものですが、終了後、写真を貼った修了証を手にしたときには、満面の笑みでご家族に見せている誇らしそうな姿がこちらで見受けられました。



理科の出前授業

■コベルコ建機(株)広島事業所
■2010年11月17日

広島CSR委員会は、社会人講師活用型教育支援プロジェクト(経済産業省委託事業)として、発明協会広島支部のコーディネートで、広島市立鈴張小学校6年生に理科の特別授業を行いました。油圧ショベルやアタッチメントの模型に触れてもらいながら、「てこ」と「てんびん」の仕組みを説明しました。感嘆の声を上げる小学生を見てうれしく思うと同時に、人と人が触れ合うCSR活動の大切さを実感する貴重な時間にもなりました。



体験を通じ理解を深めた「出前授業」

理科の授業は、知識の習得だけでなく、実験・体験を通して理解を深めることが大切です。コベルコ建機グループの特別授業は、まさに「体験を通して学ぶ」授業だったと思います。身近にある油圧ショベルに、「てこ」や「てんびん」がどのように応用されているのか。それを専門家ならではの方法で、分かりやすく説明してくださったことが、学習内容をより深め、子どもたちにとっても貴重な時間になったのだと思っています。



VOICE
加藤 恵子さん
広島市立鈴張小学校
校長

コベルコラグビーフェスティバル2010

■西日本コベルコ建機(株)
■2010年7月11日

神戸製鋼ラグビー部コベルコスティールズの選手とファンの交流イベントが神戸製鋼灘浜グラウンドで開催され、西日本コベルコ建機(株)は、ミニショベルの試乗体験・撮影コーナーやCSRパネルの展示などを行いました。小さな子どもから大人まで多数のスティールズファンが集まり、笑顔と活気あふれるイベントになりました。建設機械を少しでも身近に感じていただける場ができたことを大変うれしく思っています。



CSR賞制度

環境・社会への貢献を称え すぐれた活動を表彰

CSR賞とは2007年度から開始した制度で、社会環境の視点から顕著な功績や貢献を行った組織、団体、人物を表彰するものです。その活動を称え、今後も一層活動に励んでいただけるように、また、グループ全体のCSR活動がさらに活性化することを目的として、本制度を設立しました。

2010年度CSR賞 受賞!

しながわ夢さん橋への出張

■受賞者:東京CSR委員会

大崎周辺における花壇の手入れ活動から広がった、地域の住民や企業との交流イベント“しながわ夢さん橋”に2008年から参加しています。イベント当日は、建設機械の実機を展示するなどし、多くの家族連れや地域住民の方々に機械に親しんでもらいました。建設機械を通して、区民の方々と親睦を深めたことなどが評価され、今回の受賞に至りました。



ブラジル人学校「HIRO学園」との交流会

■受賞者:大垣CSR委員会

「HIRO学園」は、国内初のブラジル人単独の学校法人です。大垣事業所で働くブラジル人の子どもたちも多く通っていることから、地域貢献および国際親善を目的に交流会が始まりました。岐阜教習センターと共に、建設機械の写生大会や、日本語検定試験の支援を行っています。従業員だけでなく、そのご家族や地域の方々が安心して暮らせるような支援を行ったことが評価されました。



私たちが考える企業の責任

コベルコ建機グループでは、安心・安全な製品をつくり、社会と働く人を守るために、さまざまな制度を導入。企業としての社会的責任を果たし、よりよい暮らしの創造に貢献していきます。

コンプライアンス活動

企業の社会的責任を果たし より信頼される企業へ

コベルコ建機グループは、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていることを認識し、企業経営上の法令順守はもちろんのこと、コンプライアンス活動を継続して推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすよう努めています。

■基本方針

- ①私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規程を含む社内諸規定を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ②私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

■コンプライアンス5原則〈社会の常識を守る〉

- ①ルール違反・不正をしない。
- ②ルール違反・不正があった場合には、隠さない。
- ③ルール違反・不正を発見した場合には、直ちにコンプライアンス責任者に報告する。
- ④ルール違反・不正について報告した者は決して不利益を受けない。
- ⑤ルール違反・不正に対し、即時に是正・防止策を実行し、的確・迅速に公表する。

コンプライアンス委員会

コベルコ建機グループでは、企業活動における法令や倫理の遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関としてコンプライアンス委員会を設置しています。より公平で透明性の高い組織にするため、社外の委員も含めています。

個人情報保護および企業秘密管理

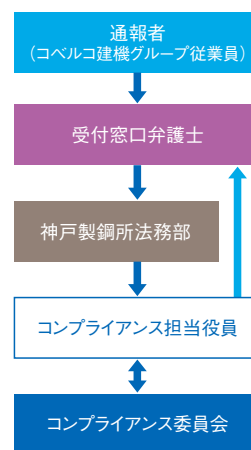
「個人情報保護法管理規程」や「個人情報保護法ポリシー」、「企業秘密管理規程」を制定し、グループ全体の管理体制を整備しています。また「個人情報取扱マニュアル」をもとに社内研修を定期的に開催し、個人情報や企業情報の保護意識向上にも努めています。

内部統制・リスク管理

企業におけるマネジメントの透明性を高めるため、リスク管理や内部統制の整備に尽力しています。「規律意識の高い企業風土」の構築を目指して新リスク管理活動を推進し、現場レベルのリスクの洗い出しや対策立案など、組織風土にまで遡って改善を行なっています。

内部通報システム

企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、「内部通報システム」を設けています。これにより、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることで問題の拡大化を防ぐ効果があります。運用に際しては、通報を行ったことにより通報者が不利益を受けないよう、徹底的に配慮しています。



危機管理・事業継続計画(BCP)

2011年3月に発生した東日本大震災では、危機管理規程に基づき、本社に「緊急対策本部」を設置。同時に、現地で陣頭指揮を取る「現地対策本部」を設置できたことにより、従業員やその家族の安否確認、設備の確認、水や食料の手配など、公的な支援だけに頼らない独自の救援活動を迅速に行うことができました。並行して、被災地への救援物資や建設機械の寄贈など、現地の状況に合わせた幅広い対応を行うことができました。

事業継続計画(BCP)という観点で見ると、これまでに新型インフルエンザ対策の基本方針と対応ガイドラインを作成し、全世界流行(パンデミック)に対応してきました。また、危機管理規程の整備や危機管理演習なども繰り返し行ってきました。

しかし、今回の震災のように広域かつ大規模な未曾有の大災害においては、特にサプライチェーンへの影響は想定をはるかに上回る事態となりました。これについては、さらに幅広い危機管理体制を整えていきます。



着実に進むコンプライアンス活動

弁護士 坂東 司朗
坂東総合法律事務所
コベルコ建機(株) コンプライアンス委員会社外委員



VOICE

コベルコ建機(株)コンプライアンス委員会の社外委員に就任してから、早4年目を迎えます。コンプライアンス委員会で審議、報告される事項も建設機械事業にかかわる特有な課題から複雑な問題まで多岐にわたりますが、経営ビジョンの一つにある「シンプル、スピード、オープン」な風土醸成を目指し、着実にコンプライアンス活動が推進されていると実感しています。

製品の 品質と安全

「メイド・バイ・コベルコ」 世界共通品質の実現

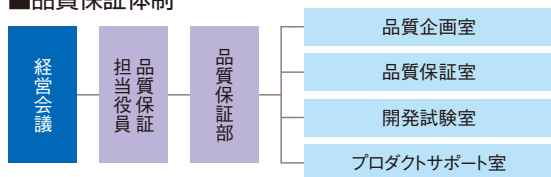
コベルコ建機グループでは国内拠点や関係会社はもとより、アジア・オセアニアを中心とした海外拠点を含む全ての部門が、「お客さま価値の最大化」、つまり、「安全で高い品質の製品・サービスの提供」を追求しています。これは世界中の全社員が品質保証活動を継続的に実践しているということです。

■品質理念

信頼される技術、製品、サービスを提供し、社会に貢献するとともに、社員並びに会社の繁栄に寄与する。

- 企業の健全な存立基盤としての品質づくりの推進
- グローバル企業に相応しい品質づくりの推進

■品質保証体制



＼ QC(Quality Control)改善事例発表会

国内外の工場で、ライン別・班別・職場別などのQCサークルを組織し、年2回QC改善事例発表会を実施しています。品質・生産・安全など職場の問題は全て改善テーマの対象です。QCサークル活動を通じて、考え・行動する集団に成長し、改善力の強化と職場の活性化を図り、品質の向上に役立っています。



職場と 人をつくる 全社活動

職場環境を整備し 愛される会社を目指す

コベルコ建機グループは、社員に愛され、社内外から信頼される企業を目指し、「人を大切にする」という観点で人事・福利厚生において法律に則した社内制度を整えています。さらに独自の対策も加え、健全で働きやすい職場づくりに努めています。

＼ 仕事と育児の両立を図る雇用環境整備

2005年度より、一般事業主行動計画を策定し、仕事と育児の両立を図る雇用環境整備を進めています。会社や行政による育児支援情報の紹介や、伝染病などで保育園や学校が休みになった場合の福祉休暇の導入を実施しました。2010年度には、男性2名も育児休暇を取得。「家族と一緒に過ごせたことは、素晴らしい経験になった」との感想も寄せられています。

＼ メンタルヘルスケアの取り組み

「安全でいきいきと働ける職場環境づくり」を目指し、全社で安全と健康づくりの活動に取り組んでいます。新入社員や管理職へのメンタルヘルス教育や、一般社員を対象としたセルフケア研修のほか、休職者が円滑に職場復帰できるよう、産業医・職場関係者と共に支援体制を整えています。

＼ 社員研修制度の充実

近年の事業環境の急速な変化・拡大にともない、2010年秋から、eラーニング制度を導入しました。各自がパソコンを通じて行えるため、時間や場所などの制約を受けることなく効率的な研修が実施できるようになりました。環境保護管理や労働時間管理の研修を通じ、コンプライアンスに対する意識の向上にも役立っています。

TOPICS タイコベルコ サッカーチーム

タイコベルコ公認のクラブサッカーチーム「Thai Kobelco」。従業員23人が所属しており、週に3回、2時間ずつ練習を行っています。タイコベルコが拠点を構えるヘラマート地区では、毎年11月～12月末に企業間の親睦を目的とした「ヘラマートカップ」が開催され、熱戦が繰り広げられています。コベルコ建機グループは、チームのユニフォームやドリンク、大会費用の一部を負担することで、従業員の幅広い活躍と企業間の交流をサポートしています。

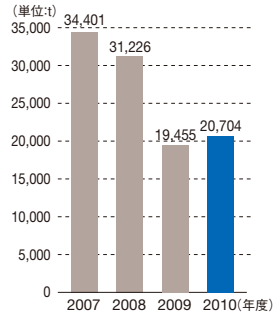


環境数値

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

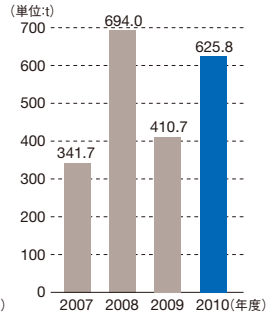
廃棄物の発生を極力少なくするとともに、可能な限り再資源化するように努めています。今後も引き続き再資源化の技術開発を進めるなど、廃棄物の発生抑制を一層進捗させていきます。

●投入資源の削減 (祇園工場水道使用量の削減)



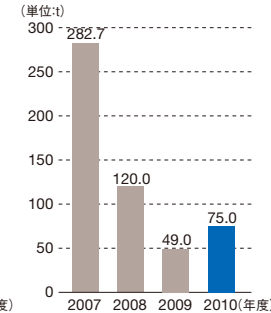
※1…広島事業所と大垣事業所の合算値

●リサイクル化の推進※1

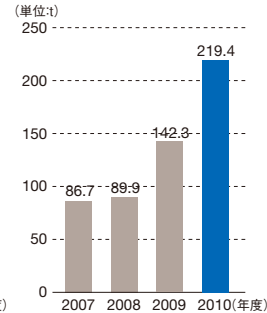


※2…祇園工場の排出量

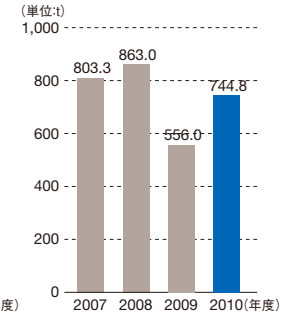
●製品梱包材の削減※1



●一般廃棄物排出量の削減※1



●産業廃棄物排出量の削減※2



事業活動に伴う排出量

コベルコ建機(株)広島事業所

主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	該当なし	—
SS	該当なし	—
油分	5	3.6
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	91,500	0	0	0	0	33,600	塗装
トルエン	10,030	0	0	0	0	10,480	塗装
エチルベンゼン	30,100	0	0	0	0	4,010	塗装

■大気データ

※規制値:大気汚染防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法
※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³
※規制値は、対象施設ごとに決められています。

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。

硫酸酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化珪素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン

■水質データ

※規制値:水質汚濁防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは市下水道条例、協定値

取扱物質総数 4

コベルコ建機(株)大垣事業所

主要製品:建設機械及び部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	30	2.09
SS	40	1.0未満
油分	5	1.0未満
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	25,714	0	0	0	0	7,241	塗装
トルエン	7,515	0	0	0	0	2,257	塗装
エチルベンゼン	6,488	0	0	0	0	88	塗装

※単位:mg/ℓ、ダイオキシン類はpg-TEQ/ℓ

※ND:分析定量限界値以下(検出されない)

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。

pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、テトラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質

※単位:kg

取扱物質総数 4

TOPICS

五日市新工場で計画するエコ・アイディア

2012年5月の稼働を目指し、広島市五日市地区に新工場の建設を予定しています。この新工場は「Smart&Clean」をコンセプトに、既に稼働している五日市工場出荷棟やインド、タイの工場に取り入れた「自然光の有効活用」を展開するだけでなく、広島地区の開発・生産拠点を集約することにより、拠点間の輸送などで発生していたCO₂の大幅削減を見込んでいます。また、これまでは敷地の狭さ故に大きな制限を受けていた工場内の部品物流についても、動線の見直しを進めています。

これらの取り組みは、まだ計画途中ですが、徹底した効率化による“エコ”を目指しています。



土地面積:約10万㎡

コベルコ建機グループの概要

●会社概要

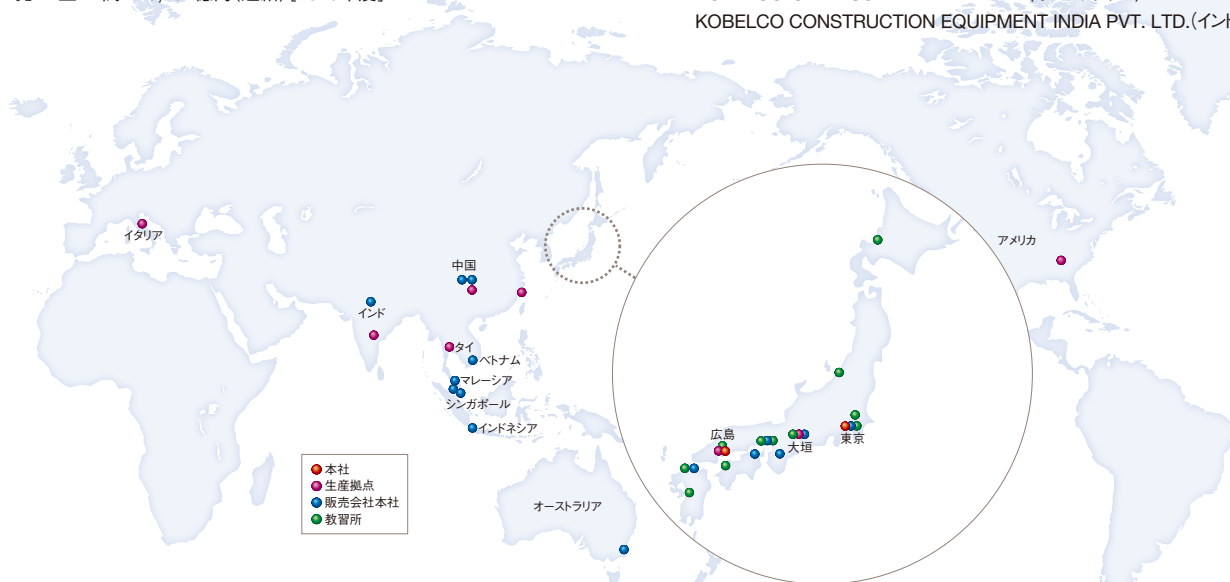
会 社 名 コベルコ建機株式会社
 英 文 社 名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
 創 立 1999年(平成11年)10月1日
 事業所所在地 □東京本社
 〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号
 TEL:03-5789-2111
 □広島本社(広島事業所)
 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号
 TEL:082-874-1111
 □大垣事業所
 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7
 TEL:0584-89-3104
 U R L <http://www.kobelco-kenki.co.jp>
 資 本 金 160億円
 代 表 者 代表取締役社長 小谷 重遠(こたにしげとお)
 事 業 内 容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
 従 業 員 数 915名(グループトータル6,578名)[2011年4月1日時点]
 売 上 高 3,131億円(連結)[2010年度]

●国内法人

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)
 コベルコ建機エンジニアリング(株)、ユタニサービスサプライ(株)
 コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)
 コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)
 トーヨースキウエ(株)、(株)ササイ、(株)ワイズヨシハラ、(株)常南

●海外法人

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AMERICA LLC.(アメリカ)
 NEW HOLLAND KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY S.p.A.(イタリア)
 成都神鋼工程机械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
 成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
 THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD.(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO., PTE. LTD.(シンガポール)
 RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN BHD(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)
 PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO-CNH AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)



広島本社(広島事業所)



大垣事業所

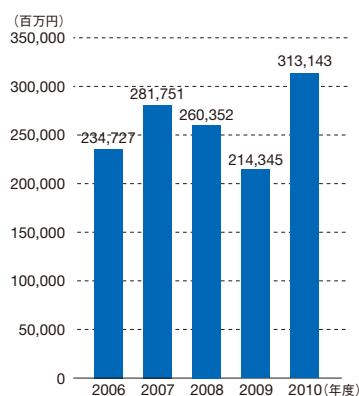


東日本コベルコ建機(株)

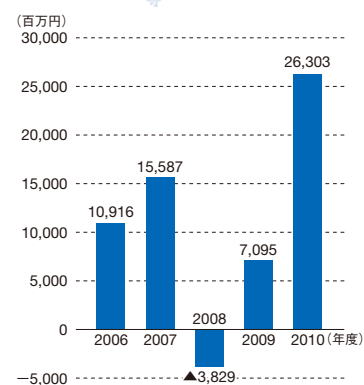


西日本コベルコ建機(株)

●売上高推移



●経常利益推移



編集後記



全社CSR委員会委員長
中田 雅彦

絆

東日本大震災は、想像を絶する被害をもたらした。直ちに対策本部が設置され、一条乱れぬ支援作戦が展開された。仲間を思う気持ちと、的確なリーダーシップ。仲間が必ず助けに来る信頼と安心感は、希望の明かりだ。中国四川省の慶興神鋼小学校から四川大地震の時の恩返しにと、温かい義援金と手紙が我々に託された。人と人との絆、善意の連鎖がこの非常時に確かにあった。



CSR推進グループ
吉川 夏渚子

地域の人に心から喜ばれる活動を

「ショベルを近くで見たいという息子の願いを叶えたいのですが」。このHPへの問い合わせ直後、営業所の従業員が率先し、ショベル見学会が開催されました。CSRだから行うのではなく、地域の人たちに喜んでもらえる活動を自然にできる、やりたくなる。こういう活動が今後もあふれるようにしたいです。後日、「息子は大変喜んで、重機を全てコベルコと呼んでいます」とうれしいお礼のメールが届きました。